

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は2015年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習について

(1) 投てき種目の練習、公式練習について

①公式練習は全種目補助競技場で行う。ただし、砲丸投のみ本競技場で行う。

②全種目招集後、練習を行う。

(2) その他、詳細については「練習会場注意事項」を参照すること。

3. 競技場使用上の注意

(1) ゴミ袋を学校受付の際に配布するので、清掃を徹底して確実にいき、ごみは各大学が責任をもって持ち帰ること。

(2) 更衣は正面玄関入って左手にある更衣室を使用すること。更衣室での場所取りは禁止する。また、荷物は各大学で責任をもって管理すること。

(3) バックスタンドへの立ち入りは規制しない。

(4) メインスタンドでの部旗・横断幕の掲出は、一般観衆の妨げとなるため禁止する。バックスタンドでの掲出は認めるが、3日間通して開門時間から閉門時間までの間とする。ただし掲出の際は必ず紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。また、大会横断幕の上下は掲出を禁止する。

(5) 大会前日、また当日中の**開門前の場所取りは厳禁とする**。閉門時にはシートを含め、荷物は全て持ち帰ること。開門前、閉門後に許可なく競技場に侵入している大学を発見した場合は**厳重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある**。

(6) 駐車は役員の指示に従うこと。競技場内は駐車禁止とし、競技場周辺の駐車可能区域に駐車すること。

(7) 競技場は全天候舗装であるため、使用するピンの長さはトラックについては9mm以下、走高跳・やり投については12mm以下とする。

(8) 当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技者の出場を認めない場合がある。

(9) 医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中(補助競技場含む試合会場)において起った怪我に対しては主催者側が応急処置を行うが、それ以降の治療に対しては一切責任を負わない。

(10) メインスタンド下の競技場内は許可された部屋以外への立ち入りを禁止する。

(11) スパイクでの競技場内通路を通行することは禁止する。

(12) 貴重品の管理は各校および各個人で責任をもって行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合については、インフォメーション・センターにて一時保管する。

(13)開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。

期 日	開門時間	閉門時間
5月15日(金)	8:00	18:00
5月16日(土)	8:00	18:00
5月17日(日)	8:00	17:30

4. 招集について

- (1) 招集所は第4ゲート付近に設置する。
- (2) 招集の方法について
 - ① 競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でスパイク・ナンバー・商標の確認を受けた後、競技者係の指示に従い移動する。
 - ② スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。
- (3) 代理人による招集は認めない。ただし、他の種目と招集時間や競技時間が重なる場合は、競技者係に本人がその旨を申し出て確認を受けること。
- (4) 混成種目の招集は2日間とも最初の1種目のみ招集所で行う。以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室は更衣室に設ける。
- (5) リレーのオーダーについては、メンバーおよびオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(招集所に準備)を招集所の競技者係に提出すること。提出は招集完了時刻の1時間前とする。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医師の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、4人全員で招集を受けること。
- (6) 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場を認めないので十分注意すること。
- (7) 招集時刻については、競技日程に記載してある。
種目・組によって異なるので、注意すること。

5. 棄権について

競技参加者の棄権については、大会の権威と運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず棄権する場合は下記の要領で申し出ること。

- (1) 大会3日前までに不出場が判明している場合は、本連盟ホームページより不出場届をダウンロードし、必要事項を記入の上、5月12日(火)18時までに本連盟事務所に提出すること。(FAX可)
- (2) 上記期日以降に、やむを得ず棄権する場合は、棄権届(本部に用意)に必要事項を記入の上、大会総務に提出し、承認を得ること。なお、この手続きを行えば、その競技者は以降の競技に出場できる。
- (3) 無断棄権に対しては、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。

6. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは平成27年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。
- (2) ナンバーカードはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍種目に出場する選手は胸・背のいずれかにつければよい。ナンバーカードの折り曲げは禁止する。

- (3)トラック競技は、写真判定装置を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。ただし、男女10000m、競歩種目については両腰につけること。腰ナンバーカードはフィニッシュ後、ただちに係員に返却すること。
※競技規則第143条7・8・9項を参照すること。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1)トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まり次第掲示板に掲示する。
- (2)トラック種目における次のラウンドへのプラス選出者の際に、同記録が複数出た場合、写真判定により1000分の2秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500m、3000mSCの場合は次ラウンドに進出できる。
※競技規則第167条を参照すること。
- (3)写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1)競技規則第162条7[国際]の適用により、不正スタートをした競技者は失格とする。
- (2)スタートの合図は“On Your Marks”、“Set”で行う。
- (3)短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (4)リレー種目について
- ①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ・ランニングパンツの区別を設けない。
 - ②全ラウンドにおいて、最初に編成して申込んだメンバーの中から最低2名は出場しなければならない。それ以外の2名はプログラムに記載されている選手であれば、予選ラウンドから出場できる。
 - ③次ラウンドにおける交代は2名以内でなければならない。なお、一発決勝となった場合、次ラウンドに進んだものとする。
※競技規則第170条10項を参照すること。
 - ④マークテープは本連盟が用意したものを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。
※競技規則第170条4項を参照すること。
- (5)男子5000mについてはタイムレース決勝とする。
- (6)気象条件により、5000m・10000m・競歩種目については、給水を設置する場合がある。
- (7)5000m・10000m・競歩種目については下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。

男子		女子	
5000m	18'00"	5000m	21'00"
10000m	37'00"	10000m	42'00"
10000mW	60'00"	5000mW	32'00"

- (8) 男女 5000m・男子 10000mについては、当日の状況をみてインレーン・アウトレーンへの振り分けを行う。役員の手配に従うこと。
- (9) オープン参加選手は予選ラウンドのみ出場とし、決勝のみの種目に参加した場合でも、順位は記録しない。(フィールド種目についても同様)

9. フィールド種目について

- (1) 走高跳および棒高跳のバーの上げ方は原則として次の通りとする。

種目・種別		練習	バーの上げ方
走高跳	男子	1m70、2m00	1m75-1m80-(5cm刻み)-2m05-(3cm刻み)
	女子	1m30、1m50	1m35-1m40-(5cm刻み)-1m70-(3cm刻み)
	十種	1m45、1m85	1m50-1m55-(5cm刻み)-1m90-(3cm刻み)
	七種	1m15、1m50	1m20-1m25-(5cm刻み)
棒高跳	男女	2m80、3m80、4m40	(女子2m90-3m00)-3m80-3m90-(10cm刻み)
	十種	2m30、4m00	2m50-(30cm刻み)-3m40-(20cm刻み)-3m80-(10cm刻み)

※同成績の場合は競技規則第181条8項を適用する。

※男・女棒高跳の男子については3m80から開始する。

- (2) 走幅跳は、男女ともに2ピットで競技を行う。
- (3) 男子三段跳は2ピット(共に13m)、女子三段跳は1ピット(10m)で行う。
- (4) 棒高跳の競技開始時間は、男女同時刻とする。

10. 対校得点・表彰について

- (1) 各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点、…、8位1点の8点制とする。
- (2) 競技者が8名に満たない種目についても8点制とする。
- (3) 総合得点が同点の場合、優勝種目の多い大学を上位とする。優勝種目が同数の場合は2位種目、3位種目、…、8位種目を各々比較し、より多い大学を上位とする。
- (4) 各種目3位までに入賞した選手は競技終了後直ちに表彰を行うので、入賞者控室に集合し、表彰係の手配に従うこと。入賞者が集合できない場合は、代理人を出すこと。また、表彰時の服装について、上半身はユニフォーム、下半身は各大学のジャージまたはウィンドブレーカーとする。
- (5) 閉会式において成績の優れた男女1名ずつを最優秀選手として表彰し、最優秀選手賞とトロフィーを授与する。

11. 用器具について

用器具は全て競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポール、やりについては個人のものを検査の上、使用を認める。その場合、他の競技者にも使用させなければならない。ポールの検査については競技実施エリアで審判員が随時行う。やりについては競技開始1時間半前に第1コーナー付近の用器具庫にて検定を行う。使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者の負担において賠償の責任を負うものとする。この場合、主催者はその責務を負わない。

12. 抗議について

- (1) 抗議は競技規則第146条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから30分以内に、次ラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから、15分以内に競技者自身または代理人が総務に申しでる。
- (2) 審判長の裁定不服の場合、その競技者に代わる責任者が上訴申立書と預託金(1万円)を添えて、正式な手続きをとる。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

13. 応援について

集団応援については、バックスタンドを使用可能とする。ただし、フィールド競技の進行に配慮すること。また、メインスタンドでの集団応援は禁止する。

14. 商標について

2015年度陸上競技審判ハンドブック(p65)競技会における広告・商標の規定に従い、招集所にてチェックを行う。

15. その他

- (1) 競技中の発病、負傷に関しては、主催者側で応急処置は行うがそれ以上の責任は負わない。必ず保険証を持参すること。
- (2) 競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側において行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2015年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (3) 記録証明書を希望する競技者は、300円を添えてインフォメーション・センターまで申し込むこと。
- (4) ポール及びやりの輸送について
 - ① 事前輸送については、5月14日(木)着の期日指定で以下の住所に送ること。
〒890-0062 鹿児島県鹿児島市与次郎2-2-2
陸上競技場内事務局気付 九州学生陸上競技連盟」宛
 - ② 返送を希望する場合は、インフォメーション・センターにて輸送の手続きを行うこと。
- (5) 本競技場の芝生への立ち入りを禁止する。
- (6) 2015年度よりユニフォームに関する規定が変更になったので注意すること。
※陸上競技ルールブック「競技会における広告および展示物に関する規定」4.1.3.7を参照すること。

- (7) 競技結果等は記録処理終了後、随時、大会速報サイトにて発表する。
- (8) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。
なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営および陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (9) 大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者および主催者が承認した第三者が、大会運営および宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等のメディアに掲載することがある。
- (10) 競技場内での写真・ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため撮影を規制する。出場校関係者については、大学名が分かる衣服を着用すれば撮影を許可する。それ以外の方で撮影の許可が必要な方は、インフォメーション・センターに申し出ること。
- (11) その他、不明な点は、インフォメーション・センターに問い合わせること。